

文 谷口 佳子(えぼしがた公園自然観察会) 写真 加賀 まゆみ(えぼしがた公園自然観察会)

河内長野駅から15分ほどの市街地にある烏帽子形公園は、1980年代に保全協会が調査を受託し、里山の生態系を残す形での整備を提言し、今も20haほどの小山のなかに、史跡や社寺林を含む、原生に近いコジイ林、ヒノキの植林地、落葉樹林、竹林など様々な形の森があり、ヒメボタル、フクロウ、ノウサギ、ササユリなど貴重な動植物が見られる公園です。それほど広くない1つの公園のなかで、多様な自然が見られる貴重さが伝わればいいなという思いで、保全協会の会員や地元の方と1990年頃より観察会を続けています。公園の中には、アスレチック遊具などもありますが、参加している子どもたちには、自然観察会という形で自然の楽しみ方を伝える場にもなっています。観察会を始めた頃に見られた、キノコが見られなくなったり、以前は聞こえたタゴガエルの声を聞くことがなくなったりなど、台風による被害やナラ枯れ等で、年々、植生が変わりつつあるのが気がかりなところですが、今後、どのように遷移が進んでいくか、注目していきたい。



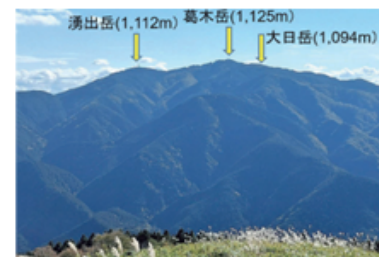
雑木林でやぶこぎ



シイやヒノキに囲まれた道

文・写真 山住 一郎(近畿植物同好会)

金剛山は大阪府と奈良県の境に位置し、葛木岳・湧出岳・大日岳の3つのピークがある自然豊かな山塊です。その山容は、北に位置する大和葛城山から望むことができます。山上にはブナ・ミズナラ林が見られ、スギ・ヒノキ林や落葉樹林が混交する景観が広がります。山頂のスギ・ヒノキ林は葛木神社や転法輪寺の社叢林として維持され、葛木神社参道のスギの大木は金剛山の悠久の歴史を感じさせてくれます。下の写真は、1962年に、昆虫採集で登った時に撮った湧出岳頂上付近の写真で、当時は草地が広がっていました。中央の展望塔は今も保存されています。60年を経た現在、頂上付近はスギ・ヒノキの人工林となって草地の植物は減少し、ノカラムツやオキナグサなども見られなくなりました。林業の後継者問題や度重なる台風や豪雨被害などで環境は変わり、植生も変化しましたが、金剛山は人々とともにある山で、動植物にとってもかけがえのない生育環境を提供してきました。昨年、金剛山ロープウェイの廃止が決まりましたが、誰もが登ることのできる魅力的な山、人と自然とのかかわりを学ぶ環境として次の世代に受け継がれていくことを願っています。



大和葛城山から見た金剛山



60年前の湧出岳山頂付近
(1962年10月21日撮影)